



TITLE:

E. FORUM: 全国スクールリーダー 育成研修 2007年度

AUTHOR(S):

西岡, 加名恵

CITATION:

西岡, 加名恵. E. FORUM: 全国スクールリーダー育成研修 2007年度. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年度): 74-75

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179724>

RIGHT:

E. FORUM 全国スクールリーダー育成研修 2007年度

はじめに

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー（教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育研究サークルのリーダーなど）の育成・力量向上が急務となっている。そこで、京都大学大学院教育学研究科では、2006年度、全国の希望者に研修機会を提供するE. FORUM（教育研究開発フォーラム）を設立した。

E. FORUMでは、「全国スクールリーダー育成研修」を実施するとともに、全国の教師たちの知見を共有・蓄積するシステムを開発している。E. FORUMが行っている活動の全体構造は、図1に示した通りである。

以下、それぞれの活動について報告する。なお、各研修の評価アンケート結果の詳細については、E. FORUMホームページを参照のこと（URL：<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>）。

1. 「スクールリーダー育成のための基礎講座」

「スクールリーダー育成のための基礎講座」（以下、「基礎講座」）は、スクールリーダーにとっての三大課題である「評価を活かした学校改善」（担当：教授・高見茂、准教授・金子勉）、「カリキュラム・マネジメント」（担当：教授・田中耕治）、「カリキュラム設計」（担当：准教授・西岡加名恵、助教・中池竜一、石井英真）について基礎的力量を育成する研修である。

この研修は、8月に【前期集中研修】を行い、終了後、研修内容を各自のフィールドで活かす活動を【宿題】として求める。さらに、12月の【後期集中研修】では、【宿題】の成果と課題を持ち寄り、一層内容を深めるという構造になっている。



2007年度については8月19～21日、12月26・27日に開催し、東は栃木から西は福岡まで1都2府15県から52名の方々にご参加いただいた。研修内容については、受講者から「理論についての講義を受ける部分、作業を通して考えを深める部分、交流を通して幅を広げる部分のバランスが良くとれている」、「聞きながら納得できることや、勤務校の教育活動や授業を『こう変えたい』と具体的に想起している場面が多かった」といった高い評価を得ることができた。

2. 「学校教育研究フェスタ」

「学校教育研究フェスタ」は、最新の政策動向や研究成果について情報提供を行うとともに、新旧の受講者が一堂に会して交流する機会を提供するものである。

2007年度は8月19日（「基礎講座」初日）に開催し、講演「教育改革の時代を読む」（教授・田中耕治）を行った。また、「パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム開発」をテーマとして、愛知教育大学附属名古屋中学校教諭 佐野吾朗先生・植田則康先生、京都教育大学附属桃山地区学校園・教諭 前園律子先生、福岡教育大学附属福岡中学校・教諭 大洲隆一郎先生・山村俊介先生に実践報告をしていただいた（パフォーマンス課題とは、リアルな文脈において知識やスキルを使いこなすことを求めるような総合的な課題であり、思考力・判断力・表現力等の評価に適している）。さらに、受講者の関心に応じてグループに分かれ、実践交流をしていただいた。

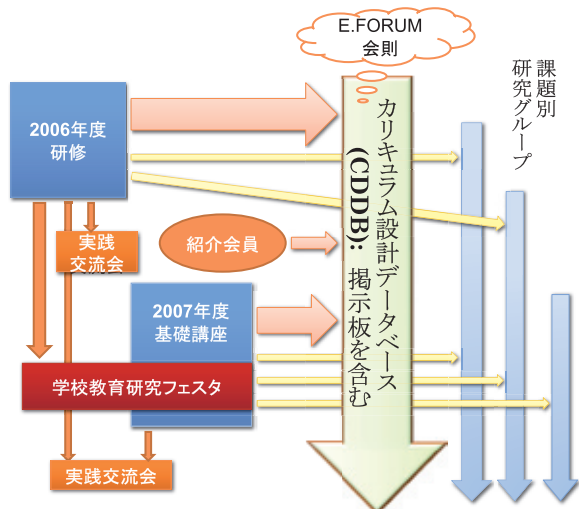


図1. E. FORUM全国スクールリーダー育成研修の全体構造（2006・2007年度）



東は栃木から西は福岡まで1都2府15県から76名の方々の参加があり、「講義、実践発表、参加者同士の意見交換など、バラエティに富んでいて時間の長さを感じさせなかった」、「実践報告や質疑応答、ご助言、とても勉強になった。同じ教科の先生からご意見をいただきとても助かった」などのコメントをいただいた。

3. 「実践交流会」

「基礎講座」修了者間の交流を深めるとともに、継続的な指導・助言を提供するため、年1～2回の「実践交流会」を行っている（2007年度は、8月18日と3月29日）。

8月18日の「第2回 実践交流会」には25名の参加があり、教科別のグループに分かれて実践の成果と課題について検討した。また、講演「アメリカにおけるスタンダード開発の動向」（助教・石井英真）では、スタンダードとは何か、どのように開発すればよいのかについて説明した。



4. 「カリキュラム設計データベース（CDDB）」

E. FORUMでは、受講者が開発した様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「カリキュラム設計データベース（CDDB）」を開設している（図2）。CDDBの開設にあたっては、情報を共有するためのルールを定めた「E. FORUM」会則を作成した。また、2007年8月には講師や受講者の紹介者も登録でき

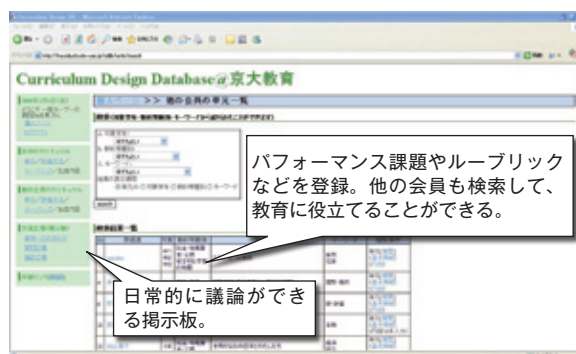


図2. CDDBの検索ページ

る「紹介会員制度」を立ち上げた。

2008年1月現在、CDDBには、ユーザー163名、単元147件（うち85件公開）、評価方法（課題など）166件（うち99件公開）、ルーブリック96件（うち48件公開）が蓄積されており、会員の利用に供している。

また、CDDBには掲示板も開設されており、日常的な議論が行われている。2006年度は受講者と講師との質疑応答が中心であったのに対し、2007年度には受講者間で共通テーマ（例. 小・中・高等学校を通して育成されるべき理科の本質的内容とは何か）をめぐる議論が行われるなど、交流が活性化している。さらに受講者が開催する公開研究会の情報も掲示板上で発信され、見学者が意見を寄せるなど、全国的なスクールリーダー間のネットワークが構築され始めている。

5. 課題別研究グループ

最後に、研修内容をさらに発展させるため、受講者の有志と講師との間で共同研究開発を行う課題別研究グループの活動も始まっている。

2007年度は、京都市立衣笠中学校との連携により課題「ルーブリックを指導の改善に活かす」を、また京都府乙訓教育局との連携により課題「教育局を基盤とする『パフォーマンス課題とルーブリック』の開発」を探究しているほか、「英米におけるカリキュラム・マネジメントの研究」をテーマとした文献調査を進めている。



（文責：西岡 加名恵）